

農 基 第 2 7 2 号  
平成 29 (2017) 年 10 月 18 日

神戸川の河川環境等に関する協議会  
座長 清 家 泰 様

出雲市長 長 岡 秀 人  
(農林水産部農林基盤課)

## 神戸川の河川環境等に関する協議会への課題提起について

平成 29 年 3 月 10 日付の神戸川の潮発電所水利使用に関する「確認書」の締結に当たり、神戸川再生推進会議から下記 15 項目の課題について要請を受け、市としては「神戸川の河川環境等に関する協議会」の中で、改めて議題として提起していくことを神戸川再生推進会議に回答したところです。

そこで、この協議会において、これらの課題について情報共有、意見交換を行っていただきたく今回提起します。

本市としては、「神戸川の河川環境の維持・保全を考えるうえでは、分水は好ましいものではない」という考えであり、今後も多くの関係者の意見を聞きながら、神戸川の河川環境の保全、農業用水の確保等に取り組む考えです。

貴協議会での検討をよろしくお願いします。

### 記

- ①中国電力は来島ダムの環境放流量を常時  $2 \text{ m}^3/\text{s}$  とし、渇水時には、環境放流を最優先し、農業用水などの維持流量が不足しないように来島ダムからの環境放流量を毎秒 2 トン以上放流するものとする。
- ②中国電力は、「馬木地点」において毎秒 4.4 トン【正常流量】を、来島ダムからの環境放流量により確保するものとする。
- ③中国電力は、来島ダム放流量の確認のために「八神地点」において、水位及び流量観測するものとする。
- ④窪田堰・八幡原堰においては来島ダムからの環境放流量と平成 25 年 5 月までに減水区間を流れていた流量を加算して放流量を決定する。
- ⑤水利使用期間満了時の時点をもって分水を廃止する。

- ⑥検討組織において、検証方法として中国電力は来島ダムにおける発電を2年間停止した上で洪水ゲートを2年間解放し、本来の流量をそのまま神戸川に流して、分水した時と分水しない時の河川環境の比較検証を実施する。
- ⑦中国電力は国交省と連携し、志津見ダムの利水容量640万トンが常用洪水吐下端の常時満水位となるように来島ダムの環境放流量を毎秒2トン以上とする。
- ⑧中国電力は来島ダムからの最大取水量を毎秒10トンとする。
- ⑨中国電力は、来島ダムでの取水により河口までが減水区域となり、河川が持っている本来の浄化機能が失われていることを理解し、現象となっている問題に関して定期的な協議の場を設け、関係者及び流域住民と解決に向かう施策を実施する。
- ⑩中国電力は河川本来が持っている浄化機能が来島ダムでの取水により、ヘドロの堆積、河床のアーマー化、砂利の供給不足、水草の繁茂、異常繁殖生物の繁殖等が広がっていることを理解し、その浄化機能回復を行う来島ダムの操作規定の見直し等の施策を講じる。
- ⑪中国電力は、戦略的アセスメント（環境影響評価）による再評価書を作成し実施、報告する。ただし、方法書、準備書等のプログラムを作成するに当たり、水域及び陸域の調査地点、調査期間、調査内容、予測方法を協議する。
- ⑫島根県及び中国電力は、確認書の内容がチェックできる監視体制を構築し、違反が発生した場合には、是正する。
- ⑬国交省、島根県及び中国電力は、来島ダム、志津見ダム及び関係者と連携を図り、毎年、ジャスト・イン・タイムな放流を行う。
- ⑭中国電力は、来島ダムからの放流水は上流から流入する水質を保った水を放流する。
- ⑮国交省、島根県及び中国電力は、来島ダムから河口までの水質を定期的に調査し、関係機関に報告する。ただし、関係者から水質の悪化現象が確認され調査の申し入れがあった場合は、双方理解のうえ、調査、報告するものとする。